

令和5年度 学校評価報告書

学校番号(小11) 長崎市立(小島小)学校

1 教育目標

夢をもち、ふるさとを愛し、自ら学び未来を切り開く児童の育成
「かがやくえがお」
 ～家庭・地域とともに「一歩、もう一歩」～

2 学校経営方針

憲法および教育基本法、本県、本市教育方針、長崎市教育振興計画に基づき、本校の実態に立って教育活動を推進し、児童と教師、保護者、地域が一体となって「子ども一人一人が生き生きと輝き、笑顔あふれる、信頼と活力のある学校」を目指す。新学習指導要領に対応し、教職員自らが進取果敢に研修に励み、指導力と資質の向上に努めるとともに、「協働」と「感動」をキーワードとして、組織的な学校経営を行う。

3 重点目標

- G1-1 確かな学力の向上を図る
 ①「わかった」「できた」の『えがおかがやく』の授業の展開 ②校内研修の日常化
 ③GIGAスクール構想の積極的な推進 ④家庭での学習習慣の確立 ⑤読書活動の推進
- G1-2 健やかな心と体を育成する
 ①『本物』のあいさつと返事「日本一」の学校へ ②「積極的」で徹底した生徒指導
 ③不登校の子どもへの組織的・効果的な支援 ④特別支援教育の推進と充実
- G1-3 学校・家庭・地域の連携による教育の充実を図る
 ①地域とともにあり、地域から信頼される学校づくり（コミュニティ・スクールの視点）
 ②「ま・つ・わ」のあるPTA活動 ③「生きた」情報発信
- G1-4 安全・安心に学べる教育環境を整備
 ①子どもの心と体を育み、守る ②仮設校舎でも美しい学校 ③いる時にいるべき場所にいる教職員
- その他 ①意識改革による働き方改革 ②不祥事を出さない・許さない職員組織 ③「チーム小島」による協働と感動 ④「かがやくえがお」あふれる教職員 ⑤子どもの心に火を灯す教職員

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	96	94	96	教育目標については保護者、児童ともに高い評価となっている。業務の改善については、午前中5時間授業の実施、通知表の2回制にしたことで、昨年度の数値より大幅に上がった。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	98	97	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			85	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			74	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	90	86	62	仮設校舎での学校生活が始まり、新たなルールや決まりが付け加えられた。その都度、生活指導目標と連携し継続的に指導してきた。児童の悩みや相談に対しては、生活アンケートや面談等を実施してきたが、日頃から児童と向き合う時間の確保や観察がさらに必要である。また、週一回実施している児童理解の時間を有効活用し、積極的な生徒指導を心がけてきた。今後も情報共有をとおして、職員間のさらなる連携強化を図っていく。
		挨拶をよくしている	86	92	81	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	77	80	84	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	74	86	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	78	88	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	96	92	91	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	94	89	90	
特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	93	89	100		
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	94	96	100	確かな学力の向上の定着については、校内研修の日常化を図り、児童の意欲を喚起する授業実践に取り組んできた。キャリア教育では「お仕事紹介」の実施や、地域探検でさまざまな職業を知ることができた。児童は、働く目的や働く人の充実感を実感していた。今後とも継続したい。
	学習指導課程	わかりやすい授業を行っている	97	92	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	84	76	78	
		将来の自立に向けて適切に指導している	96	87	95	
	キャリア教育	長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	95			

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	94	92	100	基本的な生活習慣の定着については、各家庭の状況に大きな差があるため、行政機関やSSWに協力を仰ぎ、訪問支援をしていただいている。また、仮設校舎移転に伴い、体を動かす機会が大きく減った。対応策として、秋の遠足を実施し、一日中、体を動かす機会を確保した。児童本来のあるべき姿が見られ、児童も教職員も充実した時間だった。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	83	81	53	
		体力向上に努めている	90	82	85	
	食育	食に関する教育活動を行っている	95	91	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	96	95	100	児童の安全については、地域との連携を図り、ネットワークパトロールや警察との情報交換などを積極的に実施している。ペーパーレス化、及び業務改善を推進するためtetoruによる連絡体制を日常化してきた。情報発信という視点でHPの更新を頻繁に行うことで閲覧数が増えていった。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	93	96	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	94	93	96	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	95	78	85	仮設校舎移転に伴い、課題に対して業者と連携をとり、素早く対応してきた。今後も児童の安全を第一に考え環境整備に努める。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			90	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○職員の業務改善のために、働き方改革について意識改革を重点目標に掲げてきた。服務規律委員会では、常に職員の働き方について検討し、ボトムアップで策を考えてきた。通知表の2回制や午前中5時間授業の実施で、学級事務の時間が確保され、超過勤務者が確実に減ってきている。

○特別支援教育を本校の重点目標に設定し、支援が必要である児童の学びの場の変更を行っている。来年度からさらなる合理的配慮をするなかで、児童に確実な学力の定着と向上を図っていく。

○生活指導においてはこれまで本校が実践してきた取組が定着し、不登校傾向の児童が確実に減ってきている。しかし、あいさつの定着という点では2極化傾向にある。「本物」のあいさつ日本一を目指すために、これまで以上の徹底を強化していく。

○今年度3回の学校運営協議会を開催した。委員の方と共に「学校が抱えている諸課題」や「地域が目指すべき方向」について熟議してきた。今後も地域・家庭と学校が連携、協働し持続可能なまちづくりを行っていく。

6 学校関係者評価

○基本的な生活習慣を身に付けさせるためには、学校・家庭・地域の連携が必要である。今後は学校運営協議会の柱の一つとして捉え、改善するための具体的な手立てを考えていきたい。

○ルールや決まりの認識が児童と教職員では違う傾向にある。具体的なルールや決まりを示す必要がある。

○学校保健委員会生活リズムアンケート結果・健康診断結果・メディアの時間を「学校保健委員会」にて報告し家庭への啓発を行った。研修会には保護者の参加が少なく、PTAとの連携をさらに深めていきたい。

○家庭学習の取組については、年間を通じて取り組んだ結果、ほとんどの学年で定着が見られる。家庭学習の時間を確保することや家庭と連携して習慣化を図ることが大切であるが、保護者に家庭学習の目的を再確認する。また、リモート学習の内容や質の向上についても、さらに情報提供していきたい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○学校教育目標である『かがやく えがお～家庭・地域とともに「一歩、もう一歩」』を具現化するため、教職員の指導力向上が最も重要である。校内研修における授業実践を中心に、カリキュラムマネジメントを行い、各関係機関と連携していく。

○校舎改築に伴う様々な課題については、「子どもたちのため」を念頭に置き、解決の努力をしていく。特に体力向上においては、喫緊の課題である。体育科の授業はもちろんのこと、体力向上アクションプランを活用し、学校一丸となって取り組んでいく。

○本年度よりコミュニティスクール制度を取り入れて、3回の学校運営協議会を開催した。学校だけではできないことを地域や家庭と連携しながら進めていきたい。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。